

分野	行財政運営	
現状と課題(A欄)	「今後の行財政運営のあり方」を見据えて進んでいくための基本的な方向性など(C欄)	
<p>(現基本構想の進捗検証・評価)</p> <p>○少子高齢化の進展に伴い社会保障関連経費が増大する一方、大幅な増収が期待できないなど、今後想定される厳しい財政状況を踏まえると、区自らが稼ぐという取組をさらに充実させるべきではないか。</p> <p>○基本構想に沿って施策が展開されているが、行財政運営の分野では、施設再編整備や企業との連携、戦略的広報の推進などに課題があるのではないか。</p> <p>(今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点)</p> <p>○ふるさと納税制度の影響による増収の流出や新型コロナウイルスの影響により、区財政を取り巻く環境はより一層厳しさを増していくため、財源の確保は喫緊の課題となっている。</p> <p>○SDGsをはじめとしたグローバルな視点やデジタル社会への移行、新型コロナウイルスによる生活様式の変化など行政のあり方そのものが大きく変化しようとしている。</p>	<p>(基本的な取組の方向性)</p> <p>【財政・行革】</p> <p>○区自らが稼ぐビジョン・発想を持ち、官民連携による歳入確保策にドラステックに取り組んでいく</p> <p>○固定観念からの脱却を図り、ICTや外部人材等の活用により、慣例や前例にとらわれない新たな時代を見据えた行財政改革の推進</p>	<p>(具体的な手段・方法、取組など)</p> <p>【財政・行革】</p> <p>○地域との協働により区の資源を発掘し、戦略的広報によるプロモーションやブランディングにより価値づけを行い、稼ぐ資源として活用</p> <p>○区内産業の育成や企業との連携による歳入確保策の検討</p> <p>○従来の発想にとらわれず、区有財産を稼ぐ視点から洗い直し、新たな歳入確保策につなげていく</p> <p>○厳しい財政状況を区民と共有し、ICTの活用による行政運営の効率化や、施設再編整備の取組を推進していく</p>
今後の行財政運営のあり方(B欄)		
<p>(今後の行財政運営のあり方)</p> <p>時代やニーズの変化に弾力的に対応できる行財政基盤を構築するため、持続的な「稼ぐ力」の強化と外部人材の大胆な活用により、行財政運営の構造改革を進めていく</p> <p>(今後の行財政運営のあり方を設定した考え方など)</p> <p>○本格的な超高齢社会の到来やデジタル化やグローバル化の一層の進展といった社会経済状況の変化が加速する現代において、区民ニーズに的確に対応していくためには、多様性があり状況の変化に機敏に対応できる財政運営・組織体制の構築が不可欠</p> <p>○多様化するニーズに迅速に対応していくためには、ICTの活用と協働の推進を起爆剤として、聖域なき行財政改革を推進していく必要</p>	<p>【組織・人事】</p> <p>○人材の専門性や多様性の向上を図るため、民間経験がある人材を戦略的に登用</p> <p>○デジタル化やグローバル化の進展など時代や状況の変化に柔軟に対応できる職員の育成</p> <p>○広域連携、自治体間連携、地域循環共生圏の強化</p>	<p>【組織・人事】</p> <p>○企業からの出向等により民間人材の登用を拡大し、デジタル化の推進や企業等との連携に活用</p> <p>○多様な主体や手法を組み合わせることで効果的な政策を実現することができる構想力・実践力を持った職員の育成</p> <p>○特色ある企業や海外への派遣等による人材育成</p> <p>○官民連携の仕組みづくりやデジタル化の加速化に向けた組織体制を構築するとともに、職員が政策形成に主体的に取り組む環境を整備</p> <p>○自治体間連携で民と民をつなぐシステムを構築し、広域的な課題の解決へつなげていく(例:脱炭素化の取組)</p>
	<p>【情報発信】</p> <p>○メディアを取り巻く状況の変化を踏まえ、情報提供の考え方や手法を改革していく</p> <p>○区民や民間との対等な情報共有</p>	<p>【情報発信】</p> <p>○一律的に提供するのではなく、内容に応じてウェブメディアなど多様なチャンネルを戦略的に活用していく</p> <p>○マスコミや区民との対話を拡充し、何を意識して行財政運営を行っているのか行政の意図を正確に伝えていく</p>